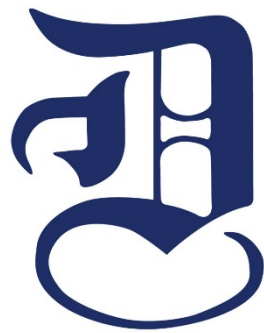


令和5年度

獨協医科大学教育セミナー

「NEXT50の飛躍に向けた新たな挑戦」



主催：獨協医科大学SDセンター

令和5年度獨協医科大学教育セミナー開催のご挨拶

獨協医科大学 SD センター長 井川 健

本学では、社会環境の変化に対応すると共に大学に対する社会貢献への期待に応えるために、教員だけでなく全学的な職員の資質向上が必要であると考え、恒常的な大学職員のスキル向上に向けた取組みとして平成26年8月1日にSDセンターを設置しました。

医科大学である本学では、教育・研究以外に、地域社会に対して診療という大きな責任を担っております。そのため、本学独自のSD(staff development)として、資格管理部門・教員研修部門・職員研修部門・看護教育部門の4部門を構成し、多角的に教職員の資質向上を目指しています。

SDセンターは『「社会のために」教育・健康・研究に関する課題に対して、主体的に分析し改善を図る事ができる人材を育成する』を mission に、①医療教育に関する役割遂行能力を向上させる、②自ら資質向上を図り行動できる人材を育成する、③相互成長（共育）を目指す教職員の人材育成を図る、の3つを vision に掲げ、大学全体としての研修を通し教職員の質の向上を目指しています。本学は、医学部・看護学部・附属看護専門学校・附属看護専門学校三郷校の教学関連部門と大学病院・埼玉医療センター・日光医療センターの病院部門から組織されていますが、各部署（部門）がその組織の垣根を超え本学の建学の精神や病院理念、経営に関して横断的に管理・運営を図り、相互に発展させることが必須です。また、3病院の運営では経営が重要な課題であるため、教職員教育に関する研修が必要であり、これが職員一人ひとりの努力と組織間の協調と協力により本学全体での取り組みと改善に繋がることとなります。

今回で第11回目となる獨協医科大学教育セミナーは、看護教育部門が平成25年度に看護系職員を対象に開催したのを端緒に、平成26年度からはその対象を全教職員に広げ、職員研修部門が担当し発展的拡大を図り開催しています。

今回の教育セミナーは、「NEXT50の飛躍に向けた新たな挑戦」がテーマです。本学の次なる50年について、広く前向きな志向で、更なる飛躍に向けて展望するものです。

また、シンポジウムは「本学の発展に寄与する医学・看護学教育-FD・SDセンターの新しい役割」をテーマとして行います。現在のSDセンターは、令和6年4月1日より、FD・SDセンターへと組織改編していきます。この目的は、本学におけるFD・SDに係わる業務内容の一元的取り扱いであり、今後においても全教職員の質の向上に向けて取り組んでまいります。教育セミナーが本学の理念と経営への共通認識への一助となるものと確信しています。

最後にこのセミナー開催にあたり、協力をいただきました教職員の方々に感謝申し上げます。

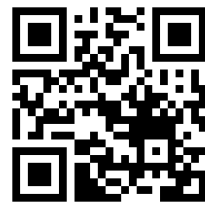
一般演題

公開開始日：令和6年3月13日（水）から

公開ページ：獨協医科大学リポジトリ

（下記 URL or 右記二次元コード）

<https://dmu.repo.nii.ac.jp/>



備考：各演題、10分程度の動画（MP4形式）となります。
PC、スマートフォン、タブレットからご視聴いただけます。
（※視聴には、D-DOA アカウントでのログインが必要です。）

【一般演題 口演】

- ー 1 当院での糖尿病血糖コントロールチーム(diabetes control team: DCT)立ち上げ後
1年間の治療介入状況の把握と今後の課題について
○竹林 晃三、山内 元貴、原 健二、土屋 天文、橋本 貢士
獨協医科大学埼玉医療センター 糖尿病内分泌・血液内科
- ー 2 入院サポート室での口腔ケア介入システムの確立
○荻原 三衣子、橋本 美雪
獨協医科大学病院 看護部
- ー 3 特定看護師の活用促進のための取り組み -K. レビンの変革モデルを用いた考察-
○上野 恵美
獨協医科大学病院 看護部
- ー 4 A 大学病院手術室における看護師特定行為活動の実態
○太田 恭兵、平林 美里、鈴木 亜沙美、佐藤 真理、蛭田 直生、辻 和美、
増渕 真澄
獨協医科大学病院 看護部 手術部
- ー 5 当院における周術期薬剤管理体制について
○中田 総一郎
獨協医科大学病院薬剤部
- ー 6 二次救急医療を担う急性期病院に勤務する看護師の看護補助者との協働と組織評価
の関係
○乾 寛美¹⁾、山口 久美子²⁾、上田 理恵²⁾
1) 獨協医科大学日光医療センター 看護部
2) 獨協医科大学看護学部
- ー 7 エルゴメータ駆動中の動画講習会による疾病教育の取り組みと意識調査
○石坂 勇人¹⁾、水嶋 優太¹⁾、野澤 直広¹⁾、松本 和久¹⁾、西川 佳織¹⁾、丹 英
哲¹⁾、神戸 貴大¹⁾、井上 翔太¹⁾、高橋 玲子¹⁾、荒川 智江¹⁾、半井 美幸²⁾、
岡野 美貴子²⁾、山口 すおみ³⁾、八木 博³⁾、豊田 茂³⁾、中島 敏明⁴⁾
1) 獨協医科大学病院リハビリテーション科

- 2) 獨協医科大学病院看護部
- 3) 獨協医科大学内科学(心臓・血管)
- 4) 獨協医科大学医学部

〇ー 8 当院における新型コロナウイルス感染症罹患患者の早期かつ安全な職場復帰の試み

○片峯 正斗¹⁾、原 昇平²⁾、伊藤 紘³⁾、戸田 正夫⁴⁾、原澤 寛⁴⁾、畠山 享美¹⁾、丸山 林土⁵⁾、谷中 弘一⁶⁾、齋藤 ひとみ⁷⁾、小倉 佳子⁷⁾、安 隆則⁸⁾、知花 和行⁹⁾

- 1) 獨協医科大学日光医療センター感染制御部
- 2) 獨協医科大学病院呼吸器・アレルギー内科
- 3) 獨協医科大学内科学(呼吸器・アレルギー)
- 4) 獨協医科大学医学部
- 5) 獨協医科大学日光医療センター薬剤部
- 6) 獨協医科大学日光医療センター臨床検査部
- 7) 獨協医科大学日光医療センター看護部
- 8) 獨協医科大学日光医療センター
- 9) 獨協医科大学日光医療センター呼吸器内科

〇ー 9 日光医療センターにおける DX 活用の現状

○小倉 佳子
獨協医科大学日光医療センター 看護部

〇ー10 卒後 2 年目看護職員に向けた職場適応支援 ～ワールドカフェ形式を用いた対話～

○船木 陽子、太内田 房子、高村 香織、池田 幸恵、榎本 真実、金子 美由紀、高橋 久美子
獨協医科大学埼玉医療センター看護部 新入職者の職場適応支援担当者

〇ー11 再生医療の現状と展望

○佐久間 理吏
獨協医科大学病院再生医療センター

〇ー12 iPhone の導入について①～内線電話利用～

○松島 裕司、長谷川 真希
獨協医科大学病院事務部施設課

○ー13 iPhone の導入について②～アプリの検討

○長谷川 真希、松島 裕司、神村 広樹、宇賀神 世那
大学病院事務部施設課

○ー14 SD センターにおける Basic Life Support プロバイダーコースの状況

○森川 純子、細川 和希、飯村 礼華、東川 ゆき子、吉田 勝義、牧 尚伸、
三好 健太郎、廣瀬 紗彩、早田 美穂、永井 睦子
獨協医科大学SDセンター

○ー15 精神科クリニカルクラークシップにおける EBM 実習の導入

○古郡 規雄
獨協医科大学精神神経医学講座

シンポジウム

会 場：創立 30 周年記念館関湊記念ホール

日 時：令和 6 年 3 月 13 日(水)

時 間：17：00～19：00

座 長：井川 健（獨協医科大学 SD センター センター長）

ハイブリット開催

URL：<https://00m.in/VIMAW>

ミーティング ID：845 8034 6711

パスコード：646649

【進行予定】

時間	内容
17:00~17:10	開会挨拶
17:10~17:50	演題発表
17:50~18:00	休憩・会場設営
18:00~18:50	意見交換会
18:50	閉会挨拶

【総合司会】 牧 尚伸**【開会挨拶】** 17:00~17:10

開会挨拶

獨協医科大学SDセンター センター長 井川 健

【シンポジウム】 演題発表 (17:10~17:50 (40分) 1人7分以内) 意見交換 18:00~18:50 (50分)

座長：井川 健 (獨協医科大学SDセンター センター長・皮膚科学教授)

SY-1 新しいモデル・コア・カリキュラムの特徴と本学医学部での運用について

○矢澤 卓也 (獨協医科大学医学部教授 教務部長)

SY-2 看護学教育のカリキュラムとこれからの看護学部教育

○小西 敏子 (獨協医科大学看護学部教授 教務部長)

SY-3 看護専門学校における看護師養成教育 -令和4年改正の指定規則を踏まえて-

○佐山 美加 (獨協医科大学附属看護専門学校 教務主任 教務委員長)

SY-4 看護専門学校における看護師養成教育 -三郷校の特徴-

○奥出 尚子 (獨協医科大学附属看護専門学校三郷校 副校長)

SY-5 SDセンターからFD・SDセンターへ -FD・SDセンターが担う役割

○永井 睦子 (獨協医科大学SDセンター 副センター長)

【閉会挨拶】 18:50~19:00

閉会挨拶

獨協医科大学SDセンター 職員研修部門長 関口 徹

後日、シンポジウムの内容をリポジトリで公開致します。

SY-1

新しいモデル・コア・カリキュラムの特徴と 本学医学部での運用について

○矢澤卓也

獨協医科大学医学部教務部長 病理学講座教授

令和4年10月に新しい医学モデル・コア・カリキュラム（新コアカリ）が公表され、いよいよ来月から本施行となります。本学は昨年創立50周年を迎え、このタイミングで、医学教育評価機構、大学基準協会の審査を受けました。その結果、JACME、JUAから認証は得られたものの、医学部教育において不十分な点については厳しい指摘がなされており、日々改善に向けた取り組みを行なっているところです。その不十分な点の多くはまさに新コアカリにおいて求められているものです。

今回のコアカリ改訂の主旨を一言でいうと「医学部学生に能動的学修を促し、座学主体から診療参加型臨床実習や医学研究など実習重視への転換」です。これは20年後、30年後に我が国が直面する人口減少、少子超高齢化、多疾患併存、多死社会、健康格差、医師偏在、増大する医療費、新興再興感染症、災害リスク、医療技術の高度化などの社会構造の変化に柔軟に対応できる優れた医師を育成するという観点に立った取り組みであり、アウトカム（資質、能力）を重視することになります。今後は医学、歯学、薬学、（そして将来的には看護学）が足並みをそろえてコアカリの改訂を行なっていくこととなります。

上記のような背景から、医学部では令和5年度からカリキュラム改訂に着手し、まずは1,2年次において水平統合講義の拡充、医学研究実習の新設を行いました。令和6年度からは臨床医学系、社会医学系科目にブロック制を導入し、医学英語教育の抜本的改訂、医学研究実習のさらなる拡充を図ります。そして令和7年度には基礎医学系科目を2年次で完結させるとともに、診療参加型臨床実習期間の拡充を図る予定です。

SY-2

看護学教育のカリキュラムとこれからの看護学部教育

○小西敏子

獨協医科大学看護学部教務部長 成人看護学(急性期)教授

本学部では、令和6年度から入学定員を145名に増員する。新カリキュラムは、自己教育力を基盤とし、看護実践力を高めながら看護専門職としてのプロフェッショナリズムを醸成し続けられる自律した看護専門職者を養成することを教育理念とし、学生自身が自らのカリキュラムをデザインすることができるように編成した。具体的には、145名の学生がダブルライセンスを取得できるように、保健師課程、助産師課程、養護教諭課程を選択制課程として設置した。また、骨子となるキャリア支援関連科目を配置するとともに、学生が自身の課題や興味・関心に基づいて段階的に学びを深められるように、基盤科目、専門基盤科目、専門科目に選択科目を配置した。

SY-3

看護専門学校における看護師養成教育 -令和4年度改正の指定規則を踏まえて-

○佐山 美加

協医科大学附属看護専門学校教務主任 教務委員長

2022年看護師指定規則改正では、教育内容を総単位数97単位から102単位に充実し、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力の強化、対象の療養の場の多様化に対応できるよう、「地域・在宅看護論」への名称変更等が行われた。本校では、教育理念、目標を見直し、新設科目を設定した。臨床判断能力・行動に必要な基礎的能力を強化する「7つの領域横断科目」、「生活行動からみるからだ（形態機能学）」、地域の政治・経済の動向を学ぶ「やさしい政治と経済」、国際的視野を学ぶ「災害看護と国際看護」、「基礎看護学実習Ⅰ」「地域・在宅看護論実習Ⅰ・Ⅱ」である。新カリ導入後2年間における学生・教員の変化と課題について報告する。

SY-4

看護専門学校における看護師養成教育 -三郷校の特徴-

○奥出 尚子

獨協医科大学附属看護専門学校三郷校 副校長

「看護専門学校における看護師養成教育 -三郷校の特徴- 要旨

獨協医科大学附属看護専門学校三郷校は、獨協医科大学の「学問を通じての人間形成」という建学の精神に則り、患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護を育成することを教育理念として、平成27年4月に開校した。

開校当初より本校は、教育の特色として以下の4つ。1. 臨床看護実践力のある看護師の育成 2. 主体的な学習能力の育成 3. 心身のバランスのとれた豊かな人間性の育成 4. 地域に根ざした愛される学校づくりを挙げている。

今年、10年目を迎える本校が、開校当初掲げた4つの特色をどう実現してきたのか、今後どのように発展させていこうとしているのか、現状を踏まえ「三郷校の特徴」を述べる。

SY-5

SD センターから FD・SD センターへ - FD・SD センターが担う役割 -

○永井 睦子

獨協医科大学 SD センター副センター長

SD センターは、平成 24 年度に前身である獨協医科大学看護教育センターとしてスタートし、平成 26 年 8 月 1 日より現在の獨協医科大学 SD センターとなりました。そして、令和 6 年 4 月 1 日より獨協医科大学 FD・SD センターへと組織改編していきます。SD センターの資格管理部門・教員研修部門・職員研修部門・看護教育部門は一部改変し、新たに FD 部門・資格研修部門・職員研修部門・看護教育部門となる予定です。本学・大学病院・埼玉医療センター・日光医療センターの全教職員の質の向上に向けて、新たに FD・SD センターが担う役割について報告いたします。

令和5年度 獨協医科大学教育セミナー 抄録集

2024（令和6）年3月13日

編集・発行

獨協医科大学 SD センター

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林 880

電話：0282-87-2494

MAIL：sd@dokkyomed.ac.jp